

「天才映像クリエイターは私の体温じゃないと眠れない」 第一話

▼シナリオ中の記号の意味

● 柱 (場所や時間の指定)

M モノローグ (キャラクターの心情、心の声)

※ ト書き (状況や行動の説明)

■ 1

● 場所…伊吹の寝室、ベッドの上／夜

※こはると伊吹、正常位で抱き合っている。

(できるだけ大ゴマで、こはるに腰を打ち付けている伊吹の図)

伊吹 「くっ…こはるちゃん…」

※伊吹、切なそうな表情で眉を寄せ、こはるにキスをしようとする

※こはる、無言で目を見開き、次のコマでキス

こはる 「んっ…」

■ 2

こはる M 「——綺麗な目だなあ」

※こはる、キスをしてきた伊吹の目をじっと見つめる

こはる M 「彼が世界を切り取る瞳」

こはる M 「それが——今、私を見てる」

※伊吹、継るようにこはるにキス。触れるだけのキスから、次第に舌を絡ませあうキスに。

こはる 「ん…」

※ディープキスになり、ちゅくちゅく、と小さな音が響く

■ 3

こはる 「ん、あっ…!」

こはる 「あ、あっ…♡」

※大きく体を揺さぶられるこはる。切ない息遣いを繰り返しながら、顔が赤くなる

伊吹 「っ…」

※こはるの表情を見て、ゾクッ…と目を見開く伊吹。

↓「目」にフォーカスを当ててほしいです

伊吹 「くっ…」

※ズンッ…！ と更に強くこはるを突き上げる伊吹。

こはる 「あぁっ…！」

※こはる、ビクンッと体を跳ねさせて感じる。

■ 4

伊吹 「ずっと、こうなればいいと思ってた」

伊吹 「…子どもの頃から、ずっと」

※こはると鼻先がくっつきそうな距離で、甘く囁く伊吹。

↓ここでも目元にフォーカスしてほしいです。表情が目元に出やすい。

こはるに対する愛しさが溢れ出している。

こはる 「い、伊吹くっ…」

伊吹 「ねえ」

伊吹 「好きだよ、こはるちゃん」

※真顔アップで、じっとこはるのことを見つめる伊吹

■ 5

こはる 「っ…」

※こはる、少し切なげな表情を浮かべて唇を噛む

伊吹 「こはるちゃん」

伊吹 「目、逸らさないでよ」

※こはるの目元にキスをする伊吹、更に腰を揺さぶる

※膣内を刺激され、きゅ〜とナカが収斂するこはる

こはる 「ん、ああっ…♡」

■ 6

伊吹 「ねえ」

※伊吹、何度もこはるにキスをする

伊吹 「見てよ」

伊吹 「君の目で、僕を見て」

伊吹 「…それだけでいいから」

※こはるの顔を覗き込み、縋るような表情を浮かべる伊吹。顔が綺麗。

こはる 「ひ、っ…♡」

※伊吹、ぎゅっこはるの胸を鷲掴みし、指で乳首をクリクリと刺激する

■ 7

こはる 「んっ」

※こはる、伊吹とキスしながら、うつすらと目を開く

こはる M 「―幸せなことだ」

こはる M 「私は彼に…志水伊吹に、見られている」

※伊吹、さらに強く膣奥を突き上げる

こはる 「ん、ああっ…!」

※こはる、呆気なく絶頂を迎えて体を大きく反らす

こはる M 「でも、なんで―」

こはる M 「なんで、こんなに胸が苦しいんだろう…」

■ 8

● 場面転換。

● 場所…こはるが働くオフィス／昼

※会社↓オフィスにフォーカスし、そこで会社員として働いているこはるの姿を映す

■ 9

こはる 「――短い間でしたが、お世話になりました」

※仕事を終え、同僚たちに退職の報告をするこはる。一礼しているが、表情は浮かない。
↓その後、自分のデスクで荷物を片付けている

こはる M 「結局、営業アシスタントの仕事は半年で契約終了か…」

※はあ、と小さくため息をつくこはる

こはる M 「契約社員で働いて、後々は正社員雇用って思ってたけど…」

こはる M 「結局、仕事も関係もうまくいかなかったなあ…」

※黙々と片付けをするこはる

■ 10

※回想で、こはるが仕事に忙殺されているシーン。人手不足と多忙、過度なマルチタスクが原因で、大きなミスをしてしまう

こはる M 「…大きいミス、何度かしちゃったもんな…」

上司 「あー…水瀬さん、それはもういいや…」

※回想で上司に呆れられているこはる。申し訳なさそうな表情。

営業職 「ちょっと、しっかりしてくださいよ…」

こはる 「す、すみません!」

※別シーンの回想。発注ミスでとにかく怒られているこはる。

こはる M 「…本当に色々あったな…」

※回想終了し、会社の中でがっくりと肩を落とす

■ 1 1

※外に出て、オフィス街をとぼとぼと歩いているこはる

こはる 「はぁ…」

こはる M 「派遣会社と面接したけど、仕事決まる気配はないし…」

こはる M 「今住んでる家の契約も今月末まで——」

こはる M 「ヤバい、貯金とか全然ない…」

※こはる、どンドン表情がこわばり、青ざめていく

こはる M 「なんか——うまくいかないとかのレベルじゃなく、本気でまずい…?」

■ 1 2

※こはる、肩をガクツと落とし、ズモモ…と重い空気を背負いながら歩く

↓ふわ、といい香りがする一人の男性（伊吹）とちよどうぞれ違う

こはる M 「…あれ？」

※こはる、驚いて目元アップ

↓そのまま後ろを振り返ろうとする

■ 1 3

伊吹 「——こはるちゃん！」

※こはるが振り返るよりも早く、振り返って声をかけてくる伊吹

こはる 「え…?」

※ぎょつとした表情を浮かべたこはる、声につられて背後を振り返る

■ 1 4

※できるだけ大きなコマで、伊吹の姿を描写してほしいです。

表情は驚きながら、喜びが隠せていない感じ。

■ 15

伊吹 「やっぱり、こはるちゃんだ…！」

※ニコツ、と表情を和らげて近づいてくる伊吹。ちょっと周囲の人が驚いている。

伊吹 「僕のこと、覚えてる？」

伊吹 「昔隣に住んた…」

こはる 「え、い——伊吹くん、だよな？」

こはる 「志水伊吹くん…」

※こはる、そっと頷いて伊吹の問いに答える

こはる 「覚えてるよ。忘れるわけないじゃん」

※微笑むこはる

※パツと目に見えて表情が明るくなる伊吹

■ 16

● 場面転換

● 場所…近くのカフェ

※カフェで飲み物を飲む二人。こはるはアイスカフェオレ、伊吹はオレンジジュース。

こはる M 「昔隣に住んた、幼馴染の伊吹くん」

こはる M 「子どもの頃は、よく一緒に遊んでたけど——」

※ぢゅー、とカフェオレを飲みながら、上目遣いで伊吹のことを見るこはる

■ 17

※伊吹、食い入るようにじー…とこはるを見つめている

↓ちよつと変人っぽいところがわかるようにしていただけると嬉しいです

伊吹 「ねえ、こはるちゃん」

こはる 「は、はい？」

伊吹 「おじさんとおばさん、元気にしてる？」

※伊吹、穏やかな表情で尋ねてくる
※頷くこはる

こはる 「うん、元気にしてるよ」

こはる 「この前も一緒に旅行行ってた」

伊吹 「そう——よかった」

伊吹 「しばらく実家に帰っていから、おじさんとおばさんにも会ってなくて」

■ 18

※こはる、ぎこちなく笑う

こはる M 「あ…そうだった」

こはる M 「伊吹くん、ご家族とはあんまり——」

※厳しい両親（医者）の回想などを入れていただきたいです

こはる 「そっか…なんか、ごめんね」

伊吹 「ううん、別に…」

伊吹 「こはるちゃんが謝るようなことじゃないよ」

※伊吹、こはるを見つめて優しく微笑む

■ 19

※二人の間にしばし流れる沈黙

こはる M 「ち、沈黙が気まずい…」

こはる 「えーと…」

※こはる、ぎこちなく笑いながら世間話を始める

こはる 「伊吹くんって、今なにしてるの？ お仕事とか…」

伊吹 「僕？」

■ 20

伊吹 「映像系の仕事してるよ」

伊吹 「映像作家みたいなの…」

※伊吹、ずっとスマホを差し出し出してくる

伊吹 「これ、僕が手掛けたトレーラー」

※こはる、頭を下げてスマホを受け取り、動画を再生

↓ハイブランド(クレ・ド・ポー ボーテとかNARS的な…)のCM

こはる 「こ、これって…！」

■ 21

こはる M 「イリナ・コバヤシ・トーキョー…」

こはる M 「超有名化粧品メーカーのCM…！」

※ギョツとして驚くこはる

こはる M 「そういえば、伊吹くんって…昔から動画とか作ってたっけ…」

※子どもの頃、スマホで自分が作った動画を見せてくる伊吹の回想をする

こはる 「す、っごいねえ…！」

こはる 「ここ、私も知ってるブランドだよ！」

こはる 「こんな有名メーカーとお仕事するなんて…」

※こはる、目を輝かせながら感心する

■ 22

※伊吹、感心しているこはるを見て少しだけ目を見開く

こはる 「私なんか、今日で会社辞めることになっちゃって…」

伊吹 「…今日？」

こはる 「うん。派遣先の契約期間、今日で終わりなんだよね」

※こはる、大分氷が解けたカフェオレをストローでかき混ぜる
↓ちよつと切なげな表情

■ 23

こはる 「でも、悪いことがあったらいいこともあるんだね！」

こはる 「今日は久しぶりに、伊吹くんに会えたし」

※こはる、やせ我慢でぎこちない笑顔を浮かべる

↓自分と伊吹の立場の違いで苦しくなっているだけで、羨望とは少し違います

※伊吹、何も言わずにじっとこはるのを見つめている

■ 24

こはる 「仕事なら、また探せばいいし——」

※無理矢理に笑うこはるの口元にクローズアップ

こはる M 「——あ」

※ここでもこはるが押さえていたものがじわじわ溢れ出し、泣きそうな表情に

こはる M 「…まずい」

こはる M 「やだ——なんか、すごく惨めだ…」

※テーブルの下で左手をぎゅっと握るこはる

■ 25

※伊吹、テーブルの上のスマホをしまう

伊吹 「あの、さ」

伊吹 「仕事、紹介できるけど」

こはる 「え？」

※こはる、目をぱちくりさせる

伊吹 「僕の仕事、こはるちゃんに手伝ってもらいたいんだけど」

※伊吹、真顔でじつとこはるのを見つめる

■26

こはる 「えっ!？」

こはる 「いやいやいや! 無理だよ!？」

※こはる、ハッと我に返ってブンブンと手を振る

こはる 「だって、伊吹くんの仕事って映像系なんだよね!？」

こはる 「そんな難しいこと――」

伊吹 「難しくないよ」

伊吹 「――多分」

●場面転換。机といす、最低限の家具以外な―んにもない伊吹の部屋。

■27

こはる 「は、え…?」

※こはる、きょとんとした表情を浮かべている

こはるM 「ホイホイついてきちゃったけど…」

こはるM 「ここ、伊吹くんの部屋だよね…?」

こはるM 「…モデルルームみたいで、生活感全然ない…」

伊吹 「――パンツが」

こはる 「え?」

伊吹 「パンツがなくなっちゃったんだ」

■28

こはる 「パ!？」

※こはる、大げさなくらい驚く

伊吹 「うん。洗濯機動かせないから捨ててたんだけど」

伊吹 「在庫なくなつて…今日も買いに行つてた」

※伊吹の回想。過去に洗濯機にビーズクッション突っ込んでダメにした図

伊吹 「でも僕、あんまり仕事以外のことしたくないし」

伊吹 「マネージャーがハウスキーパーさん連れてきたけど、

知らない人が来るのなんかヤだし」

伊吹 「でも、こはるちゃんなら嫌じゃないから」

※伊吹、ぎゅっとこはるの手を握って、弱々しい表情を浮かべる

伊吹 「——助けて」

■ 29

こはる 「う…:…!」

伊吹 「通うの大変なら、部屋余ってるから…住み込みでもいいよ」

※スマホをポチポチする伊吹

※「契約更新」「家賃」の文字が背中にのしかかっているこはる

伊吹 「お給料は——これくらいあれば足りる？」

※スマホを見せる伊吹。結構な高給。

※金額を見てギョツとするこはる

こはる M 「こ、こんなに…?」

こはる M 「…いいのかな」

※スマホをちら見すると、困ったような表情の伊吹が見える

こはる 「う…:…!」

■ 30

こはる 「や、やります!」

こはる 「その、住み込みで…」

※頷くこはる

※微笑む伊吹、すぐくうれしそう

伊吹 「そーー」

伊吹 「じゃあ、これからよろしく」

※そつとこはるの手を握る伊吹。大ゴマだと嬉しいです。